

水と健康 関連研究

弘大とサントリー 共同講座を設置

弘前大学大学院医学研究科とサントリー食品インタナショナル(本社・東京)は1日、同大に共同研究講座「ウォーターヘルスサイ

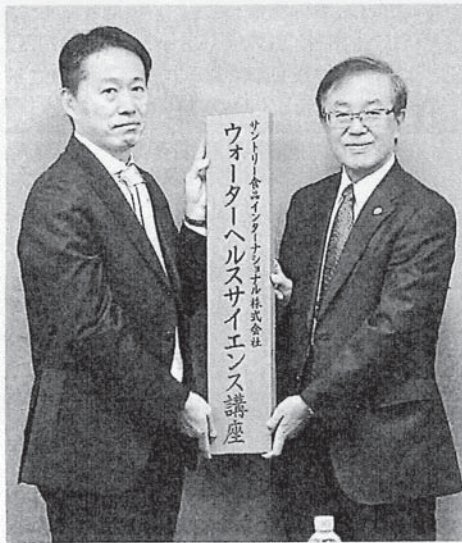
エンス講座」を設置した。弘大が弘前市岩木地区の住民を対象に行っている大規模な健康調査のデータを解析し、1日の水分摂取量や体内の水分量などと健康との関連を調べる。

弘大などによると、人体の約3分の2は水でできているが、通常の水分摂取や

水分の体内分布などが、健康にどのような影響を及ぼしているかは、詳しく解明されていないという。

講座の設置期間は3年。同大の社会医学講座の中路重之特任教授を研究代表者とし、同社の研究者も特任助教として研究に加わる。

1日、弘大で設置開設式が行われ、若林孝一研究科長や同社の西本正三常務執行役員商品開発部長らが出席。佐藤敬学長は「水分摂取の重要性が日常生活に浸



共同研究講座のプレートを掲げる西本常務執行役員④と佐藤学長

透すること、短命県返上や世界の人々の健康に役立つことができれば」と期待した。

同社は、天然水を含む食品事業を国内外で展開しており、研究成果を基に健康

関連食品の開発を見据える。弘大は2005年度から「岩木健康増進プロジェクト」として毎年、健康調査を行っており、現在の調査項目は2千項目に及ぶ。企業が同プロジェクトに関

する寄付講座や共同研究講座を設置するのは、ライオン、花王、協和発酵バイオ、三菱ケミカルホールディングスグループの生命科学インスティテュートに続き5例目。(鎌田秀人)